

我々は以下の4つの目を持ち行動します。

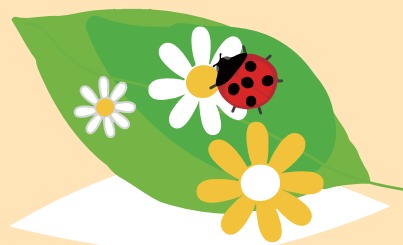
### 「鳥の目」

一. 我々は、鳥のような俯瞰<sup>ふかん</sup>的視点と広い視野を持ち、日々積極的に地域に出て住民一人ひとりの“想いと行動を紡ぐ”ため、考え行動します。そして、鳥のように自由に村を飛び回りながら、住民の皆さまとともに手を携え問題の解決に柔軟に取り組みます。



### 「虫の目」

一. 我々は、虫のように様々な感覚器を活用しながら、どんな小さなニーズも見逃さず、一滴の涙や密やかな吐息にも気づく力をもち“かけがえのない一人ひとり”のために行動します。そして、住民のために汗を流します。



### 「魚の目」

一. 我々は、目まぐるしく変わる福祉環境や個別・多様なニーズの流れの中にあっても目を見開いて現状の課題を見逃さず、将来への展望を見定められる広角的な視点を持ち行動します。常に現状に満足することなく、ニーズを発掘し先駆的な取り組みへ挑戦し続けます。



### 「心の目」

一. 我々は、常に自らを省み、住民のために必要なことを見極め、自問自答しながら自己研鑽<sup>けんざん</sup>に努めます。専門職としての研鑽を積み、事の真贋<sup>しんかん</sup>を見極めることが出来るよう真摯に諸事にあたります。

そして“かけがえのない一人ひとり”の福祉<sup>しあわせ</sup>を見つめられるよう心眼<sup>しんがん</sup>を開き、職員相互に切磋琢磨しながら潜在化したニーズにも気づく力を備えます。



※俯瞰

高いところから全体を見渡し眺めること。

※研鑽

学問などを深く極めるよう努力すること。

※真贋

本物と偽物

※心眼

物事の真実の姿を鋭く見抜く心のはたらき